

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

『分類語彙表』増補のための「カタイ」と「ヤワラ  
カイ」の多義性の考察：BCCWJの用例をもとに

メタデータ	言語: 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-01-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三好, 優花 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/0002000160">https://doi.org/10.15084/0002000160</a>

# 『分類語彙表』増補のための「カタイ」と「ヤワラカイ」の多義性の考察 ——BCCWJの用例をもとに——

三好優花

一橋大学大学院 博士後期課程 / 国立国語研究所 研究系 非常勤研究員

## 要旨

『分類語彙表—増補改訂版—』(国立国語研究所 2004)では、多義語の多重分類は部分的にしかされていないため、未収録の意味を明らかにし、増補(該当する既存の分類項目に追加)する必要がある。本稿では、その『分類語彙表』増補を目的に、現行の『分類語彙表』では1~2箇所にしかなかった分類されていない多義語形容詞「カタイ」と「ヤワラカイ」について、「カタイ」を8つ(下位分類を含めて13)の意味に、「ヤワラカイ」を7つ(下位分類を含めて11)の意味に再分類し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス:BCCWJ』の実例をもとに、意味ごとの用例数、意味と表記・ジャンルとの関係について考察した。その結果、まず、意味については、「カタイ」も「ヤワラカイ」も基本義での使用、つまり物理的な触覚について述べる際に使われることが多いが、基本義以外については、「カタイ」は【4】「変化しにくいさま」や【1b】「緊張しているさま」、【3】「加わっている力が強いさま」という意味での使用が多いのに対し、「ヤワラカイ」は【8a 視覚】をはじめとする共感覚メタファーの使用が多いというように、使われやすい意味に違いが見られた。表記については、「カタイ」も「ヤワラカイ」も、揺れているものの、意味ごとに使われやすい漢字が異なっていることが確認された。ジャンルについては、【1】基本義は、「カタイ」も「ヤワラカイ」も「技術・工学」での使用が多いが、それ以外の意味については、「カタイ」は【1b】や【6 態度】が「文学」に、【4】が「哲学」に多いこと、「ヤワラカイ」の【8a 視覚】が「芸術・美術」で、【8c 味覚】が「技術・工学」における食べ物のお話で多く用いられていることが分かった。以上の考察を通して、現在の『分類語彙表』には、使われやすい語義の記述に抜けが見られることを指摘し、使われやすい表記、使われやすいジャンルに合わせた例文とともに基本的な語義が提示されることが望ましいことを主張する\*。

キーワード：多義語、形容詞、『分類語彙表』、カタイ、ヤワラカイ

## 1. はじめに

『分類語彙表』は、1964年に初版(国立国語研究所 1964)が公刊された、現代日本語を対象とした最初のシソーラスである。『分類語彙表』では、「3.5060」のように5桁の分類番号が記されている。各数字は、「類」(品詞上の分類)、「部門」、「中項目」、「分類項目」を表しており、例えば、「3.5060」は「相一自然—自然—材質」という分類を示す。初版では、「基本語の多くは多義的であるが、代表的な語義に限定して収録していた」(柏野 2006: 145)という特徴があり、こうした点を補う形で改定された現在の増補改訂版(国立国語研究所 2004)でも、多義語については、

\* 本稿は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「多様な語彙資源を統合した研究活用基盤の共創」(プロジェクトリーダー：小木曾智信)のサブプロジェクト「学習者辞書用語彙資源の構築」(同：柏野和佳子)の研究成果である。なお、本稿は、2023年1月8日「学習者辞書用語彙資源の構築」共同研究発表会における発表「形容詞「やわらかい」の多義性に関する一考察」をもとに加筆修正したものである。

多義的別義が網羅されているわけではなく、多義的別義のうちの基本的な意味に抜けが見られる。

形容詞「カタイ」と「ヤワラカイ」もそうした多義語の例である。これらの語には、「カタイ肉／ヤワラカイ肉」のように触覚を描写する用法のほかに、例えば、「カタイ話／ヤワラカイ話」のように、話す内容について描写する用法もあるが、『分類語彙表』ではこのことが示されていない。

『分類語彙表』における多義語の語義に抜けが見られるという問題意識から、新納（1997）は、コーパスのデータを用いて計算によって名詞の未登録語義を見つける手法を提案している。この手法は、自動化されているため、かなりの数の語義を見つけることが可能であるというメリットがある一方、未登録語義のうち、優先的に登録すべき語義はどれかといったことは分からない。

そこで、本稿では、「カタイ」と「ヤワラカイ」を例に、語義を整理したうえで、『分類語彙表』に必要な情報について考える。

なお、「カタイ」には、「難しい・困難である」という意味があり、『分類語彙表』でも「難い」が「3.1346 相一関係一様相一難易・安危」に分類されているが、国立国語研究所（1972: 431）では、この意味の「カタイ」は「別語である可能性が高い」とされている。それに対し、森田（1986）では、「むずかしい」という意味の「カタイ」と、「彼の合格はかたい」といった場合の「間違いない」という意味の「カタイ」は、いずれも、「基本義“形をくずさない、動かない、しっかりしている”という性質を持つ事物が結果的に“外からの働きをかんとんには受けつけない”状況にあるという性格の二面性に由来している」（森田 1986: 17）と分析されている。また、八尾（2007）でも同様に、「カタイ」の同音異義語ではなく多義的別義の1つであり、「カタイ」の中核的意味を共有していると主張されている。しかし、「難しい」という意味のカタイは基本的に表記が分けられていて他の意味との区別が明白であることと、本稿の主な目的は「ヤワラカイ」との対応関係に着目して考察すること及び『分類語彙表』に追加すべき情報について考察することから、すでに『分類語彙表』にて分類されているこの意味の「カタイ（難い）」については考察対象外とし、以下、「カタイ」の意味を記す際は、この意味を除外した意味を記す。

## 2. 先行研究

### 2.1 「カタイ」と「ヤワラカイ」は多義語なのか

まず、『分類語彙表』における扱いを見ると、「カタイ」は「堅い・固い・硬い」が「3.5060 相一自然一自然一材質」に分類され、「堅い」が「3.3013 相一活動一心一安心・焦燥・満足」に分類されているのに加え、「口が堅い」（3.3100 相一活動一言語一言語活動）、「頭が固い」（3.3421 相一活動一行為一才能）が立項されているのに対し、「ヤワラカイ」は「3.5060 相一自然一自然一材質」にしか分類されていない<sup>1</sup>。では、「カタイ」の語義は2つで、「ヤワラカイ」は単義語なのだろうか。

国広（1982: 97）では、「多義語」（polysemic word）とは、同一の音形に、意味的に何らかの

<sup>1</sup>「ヤワラカ」については「3.5060 相一自然一自然一材質」のほか「3.3680 相一活動一待遇一待遇・礼など」に分類されている。また、「物柔らか」（3.3420 相一活動一行為一人柄）、「お手柔らか」（3.3680 相一活動一待遇一待遇・礼など）が立項されている。

関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う。」と定義されている。そして、その複数の意味の認定基準として、舩山 (2020) では、反義語の違い、上位語の違い、照応の同一性、くびき語法、各意味と共起する表現の自由度が挙げられている。

舩山 (2021: 17) では、反義語について、以下のように、プロトタイプの意味である (1) では「カタイ」と「ヤワラカイ」が対応しているが、(2) の「精神・心理に関する意味」、(3) の「可能性に関する意味」は「カタイ」のみで慣習化されていることが指摘されている。

- (1) a この肉はかたい。  
b この肉はやわらかい。
- (2) a 決意がかたい。  
b × 決意がやわらかい。
- (3) a A 候補の当選はかたい。  
b × A 候補の当選はやわらかい。 (舩山 2021: 17)

「ヤワラカイ」についても、「やわらかい日ざし」とは言えても「??かたい日ざし」とは言えないように、「カタイ」が対義語とはなっていない意味がある。

「くびき語法」とは、「1つの句・文などにおいて、1つの語が異なる意味を担うことにより、不自然に感じられること」(舩山 2020: 137) とされている。舩山 (2020) では、(4) のように「守り」と「結末」について同時に形容すると、「かたい」の異なる意味が活性化され、くびき語法となることが指摘されている<sup>2</sup>。

- (4) ?守りと結末がかたいチーム。 (舩山 2020: 137)

「ヤワラカイ」については、例えば、次のような例はくびき語法となる。

- (5) ?体と頭が柔らかい人 (作例)

こうしたテストの結果から、本稿では「カタイ」および「ヤワラカイ」は多義であるという立場をとる。

## 2.2 辞書類における記述

### 2.2.1 国語辞典

本節では、辞書類において「カタイ」および「ヤワラカイ」の意味がどのように記載されているのかを見る。まず、一般向けの国語辞典の例として、『岩波国語辞典 第八版』(以下『岩波』)、『大辞林 4.0<sup>3</sup>』(以下『大辞林』)、『明鏡国語辞典 第三版』(以下『明鏡』)、『三省堂国語辞典 第

<sup>2</sup> (4) を異なる意味が活性化されている例として見なすかどうかは人によって判断が分かれそうであるが、舩山 (1994) では、本稿に後掲する表3に見られるように、「守りがかたい」を<3>、「結末がかたい」を<2>という異なる意味に分類している。

<sup>3</sup> アプリ版。書籍版の『大辞林第4版』に新語などを増補したもの。

八版』(以下『三国』)を見る。具体的な記述内容は付録に掲載したのでそちらを参照されたい。

これらの辞書に書かれている主な語義は、(6)のようにまとめられる。

(6) 国語辞典における「カタイ」の語義：

- ①形が変わりにくいさま。
- ②変化しにくいさま。他からの影響を受けにくいさま。
- ③たしかである。确实である。
- ④厳しいさま。
- ⑤融通がきかないさま。
- ⑥堅苦しいさま。まじめなさま。
- ⑦緊張しているさま。こわばっているさま。
- ⑧結びつきが強いさま。
- ⑨強い力が加わっているさま。
- ⑩画像の明暗の対照がはっきりしているさま。

まず、本稿では、(6) ①のような物理的なかたさ(形が変わりにくいさま)を基本義と捉える。辞書における基本義に関する記述を見ると、『岩波』と『大辞林』は①の1つにまとめられているのに対し、『明鏡』と『三国』では、どのように形が変わりにくいのかという点に着目して分類されており、『明鏡』では①と⑧の2つに、『三国』では「固い」①②、「硬い」①、「堅い」①の4つに分けられている。

基本義以外の語義を見ると、まず、(6) ②物理的ではない「変化のしにくさ」あるいは「他からの影響を受けないさま」という語義がすべての辞書から抽出できる(『岩波』②⑦、『大辞林』③、『明鏡』⑥、『三国』「固い」⑦、「堅い」③)。そして(6) ②は、(6) ③「確かさ」(『岩波』②⑨、『大辞林』⑦⑦⑦、『明鏡』③、『三国』「堅い」②)、(6) ④「厳しさ」(『大辞林』⑧、『明鏡』⑤、『三国』「固い」⑧⑨)、(6) ⑤「融通がきかないさま」(『岩波』③①、『大辞林』④、『明鏡』⑦、『三国』「固い」⑥)へと広がっていくのだと捉えられる。さらに派生した語義としては、まず、(6) ⑥「堅苦しい」「まじめだ」という語義が抽出できる(『岩波』③⑦、『大辞林』⑥、『明鏡』⑩、『三国』「硬い」②、「堅い」⑤⑥⑦)。また、心理面に着目した(6) ⑦「緊張しているさま」「こわばっているさま」という語義もすべての辞書で挙げられている(『岩波』③⑨、『大辞林』⑤、『明鏡』⑨、『三国』「硬い」③)。

別の系統の語義として、(6) ⑧「結びつきの強さ」という語義が、『大辞林』②、『明鏡』④、『三国』「固い」③に挙げられている。『三国』ではさらにそれに加え、「固い」④「強い力が加わっている」という語義もある((6) ⑨)。

もう一つ、他と大きく異なる語義としては、『大辞林』⑩に、「画像の明暗の対照がはっきりしている」という視覚的なものがある((6) ⑩)。

次に、「ヤワラカイ」の語義については、以下のようにまとめられる。

(7) 国語辞典における「ヤワラカイ」の語義：

- ①形が変わりやすいさま。 …壊れやすい／ふわふわしている／よく曲がる
- ②穏やかであるさま。
- ③堅苦しくないさま。 …表現／内容／考え

まず、物理的なやわらかさに関するもの、つまり基本義に目を向けると、『岩波<sup>4</sup>』及び『大辞林』では1つのみとされているが、『明鏡』は①②③④の4つに、『三国』は「柔らかい」の①②③④と、「軟らかい」の①②の6つに分類している。『明鏡』と『三国』の分類のしかたを見ると、変形のしやすさ・壊れやすさ（『明鏡』①②、『三国』「柔らかい」①、「軟らかい」①）、ふわふわとした感触（『明鏡』④、『三国』「柔らかい」②）、体の柔軟さ（『明鏡』③、『三国』「柔らかい」③）を分けていることが分かる。

基本義以外の語義に目を向けると、『岩波』以外の3つの辞書に共通して、「ヤワラカイ日差し」などの(7)②「穏やかさ」に関するものが挙げられている（『大辞林』②、『明鏡』⑤、『三国』「柔らかい」⑥）。これらは、「??カタイ日差し」「??物腰がカタイ」とは言えないように、「カタイ」とは対応していない語義である<sup>5</sup>。

最後に、『岩波』②、『大辞林』③から、(7)③「堅苦しくない」という語義が抽出できるが、これは、『明鏡』および『三国』では、修飾対象によって、「表現など」（『明鏡』⑥）、「話などの内容」（『明鏡』⑦、『三国』「軟らかい」③）、「考え」（『明鏡』⑧、『三国』「柔らかい」⑤）に分けられている。

また、(6)と(7)を比べると、「カタイ」①と「ヤワラカイ」①、「カタイ」⑥と「ヤワラカイ」③は対応しているが、それ以外は対応していない。

### 2.2.2 IPAL における記述

次に、『計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL (Basic Adjectives)』（情報処理振興事業協会技術センター1990）（以下『IPAL』）における記述を見る。『IPAL』は、「基本的な形容詞約130語の見出し語（エントリ）をいくつか下に下位区分し、それを1つの単位（サブエントリ）として、意味、形態、統語、連語に関する情報を記述したものである。」（橋本他1989:746）。なお、『IPAL』の辞書データは、情報処理振興事業協会（IPA）（2007）を利用して参照した。

『IPAL』では、「カタイ」「ヤワラカイ」については、それぞれ、1語として立項されており、「カタイ」は9つ、「ヤワラカイ」は8つの語義が認定されている。まず、「カタイ」の語義を表1にまとめる。

<sup>4</sup>『岩波』は①を「やわらかだ。」とだけ記述し、詳しい説明は「やわらか」に譲っているため、他の辞書で基本義以外に分類されているものも『岩波』①に含まれていると思われる。

<sup>5</sup>ただし、『三国』「柔らかい」⑥の例「柔らかい表情」は「硬い表情」と対応している。

表1 『IPAL』における「カタイ」の語義

語義	統語情報	例文
01 変形したり, こわれたりしにくい	NP1 ガ O1	ダイヤモンドは硬い
	NP2 ガ NP1 ガ PA	この鉛筆は芯が硬い
02 弾力性が少ない	NP1 ガ O1	このベッドは固い
	NP2 ガ NP1 ガ PA	このベッドはスプリングが固い
03 あまりなめらかに動かない	NP1 ガ O1	彼の体は固い
	NP2 ガ NP1 ガ PA	彼は体が固い
04 きつくしまっていて, 簡単には動かない	NP1 ガ O1	このビンのふたは固い
	NP2 ガ NP1 ガ PA	このピンはふたが固い
05 音色に広がりがなく, 冷たい感じを与える	NP1 ガ O1	このピアノの音色は固い
	NP2 ガ NP1 ガ FC	このピアノは音色が固い
06 自由な, のびのびしたところがない	NP1 ガ O1	彼の演技は固い
	NP2 ガ NP1 ガ BE	彼は演技が固い
	NP2 ガ NP1 ガ EL	彼は表情が固い
07 強くしっかりしている	NP1 ガ O1	彼の決意は堅い
	NP2 ガ NP1 ガ BE	彼はガードが堅い
	NP2 ガ NP1 ガ NO	あのチームは団結が堅い
08 まじめだが, 面白味に欠ける	NP1 ガ O1	彼の話はいつも堅い
	NP2 ガ NP1 ガ EL	この本は内容が堅い
09 実現の可能性が高い	NP1 ガ O1	彼の入賞は固い

表1と(6)を比較すると,(6)①と『IPAL』01～04,(6)⑥と『IPAL』08,(6)③と『IPAL』09が対応している。(6)②と『IPAL』07も,用例を見ると対応しているが,国語辞典では「変わらない」という部分に着目されているのに対し,『IPAL』では「強くしっかりしている」という部分に着目されている点が異なる。また,(6)⑦では表情・動きのかたさについて,「緊張」という心理的要因に言及されているが,『IPAL』06では心理面への言及はない。

国語辞典と『IPAL』が対応していない部分を見ると,(6)④厳しいさま,⑤融通がきかないさま,⑧結びつきが強いさまは国語辞典のみに挙げられており,『IPAL』05の音色については,国語辞典では『岩波』の①基本義に添えられているのみである。

次に,「ヤワラカイ」の語義を見る。



表2 『IPAL』における「ヤワラカイ」の語義

語義	統語情報	例文
01 変形したり, こわれたりしやすい	NP1 ガ O1	この金属は軟らかい
	NP2 ガ NP1 ガ PA	赤ちゃんは爪が軟らかい
02 弾力性がある	NP1 ガ O1	このソファのクッションは柔らかい
	NP2 ガ NP1 ガ PA	このソファはクッションが柔らかい
03 なめらかによく動く	NP1 ガ O1	彼の体は柔らかい
	NP2 ガ NP1 ガ PA	彼は体が柔らかい
04 ふわふわした感触を与える	NP1 ガ O1	このタオルの肌ざわりは柔らかい
	NP2 ガ NP1 ガ PV	このタオルは肌ざわりが柔らかい
	NP2 ガ NP1 ガ TR	このコートは裏地の肌ざわりが柔らかい
05 音色に広がりがあって, 暖かい感じを与える	NP1 ガ O1	オーボエの音色は柔らかい
	NP2 ガ NP1 ガ FC	オーボエは音色が柔らかい
06 見た目があまりきつくなく, やさしい感じを与える	NP1 ガ O1	あのドレスのシルエットは柔らかい
	NP2 ガ NP1 ガ EL	彼の彫刻は線が柔らかい
07 感触が穏やかで, 快い感じを与える	NP1 ガ O1	春の日差しは柔らかい
08 態度が穏やかで好感を与える	NP1 ガ O1	彼の人当りは柔らかい
	NP2 ガ NP1 ガ CH	彼は人当たりが柔らかい

表2と(7)を比較すると,(7)①が『IPAL』01～04に,(7)②が『IPAL』07,08に対応している。『IPAL』の05,06の音色や見た目に関する印象については,音色は『明鏡』⑤に例があるが,見た目に関しては国語辞典には記述がない。『IPAL』は,「カタイ」についても「ヤワラカイ」についても,印象に関する語義を国語辞典よりも詳しく分析していると言える。

さらに,表1と表2を比較すると,01～03,05は「カタイ」と「ヤワラカイ」とで対応しているが,その他は対応していない。しかし,「ヤワラカイ」06の「線が柔らかい」に対して「線がかたい」と言えるように,対応関係が明示されていない意味の中にも対応している意味がある。

### 2.2.3 学習者向けの辞書

最後に,日本語学習者向けの記述として,今井(編著)(2011)を見る。

今井(編著)(2011)では,コアの意味から派生したものとして多義的別義を捉えており,「カタイ」「ヤワラカイ」について,それぞれ,図1,図2のように説明している。



「かたい」(硬い, 堅い, 堅い)

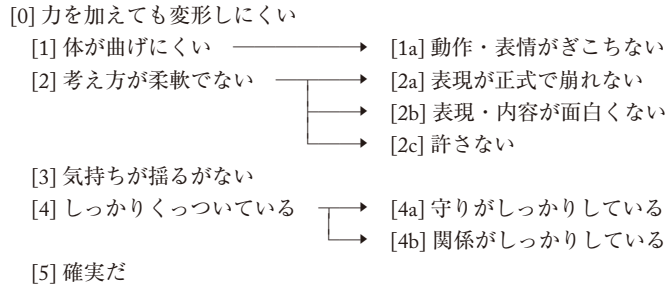


図1 「カタイ」の分析 (今井 (編著) 2011: 96)

「やわらかい」(柔らかい, 軟らかい)

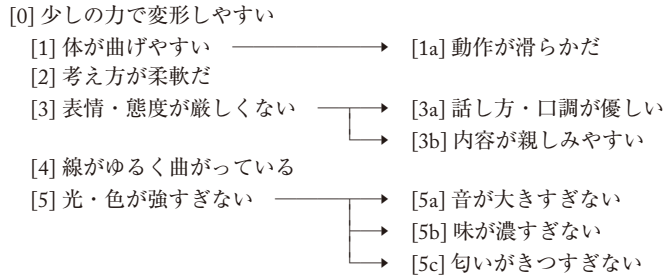


図2 「ヤワラカイ」の分析 (今井 (編著) 2011: 271)

まず、図1の「かたい」と図2の「やわらかい」の対応について見ると、[0]～[2]の意味が対応しており、[3]～[5]の意味が非対応となっている。また、対応している意味のうち、[2]は「かたい」のみに下位分類があり、[2b]の「内容が面白くない」に対応する意味は、「やわらかい」のほうでは[3]の下位分類[3b]にある。また、「やわらかい」のみに挙げられている意味のうち、[3]の「表情」については、「かたい」では[1a]に分類されている。[4][5a]については、「かたい」には対応する意味がないが、「カタイ線」「カタイ音」と言えることから、実際には「カタイ」と対応していると考えられる。

次に、先に見た母語話者向けの辞書類と比較すると、図1の「かたい」の語義は、(6)にまとめた国語辞典における語義と概ね一致しているが、[1]「体が曲げにくい」というのを立てたうえで、[1a]「動作・表情がぎこちない」という語義をそこから派生したものとして捉えている点に特徴がある。一方、図2の「やわらかい」についても、[1a]「動作が滑らかだ」という語義が挙げられている。また、[5]に音、味、匂いに関する言及がある点も特徴的である。

ただし、学習者向けの辞書であるため、全体的に簡素化された説明となっている。例えば、やわらかいの[5a]は単に音の大きさについて言及しているが、「やわらかい音」と言う場合、鉄琴の音ではなく木琴の音といった、音の大きさよりもむしろ音の種類のほうが重要であろう。

### 2.3 先行研究における記述

日本語学の立場で書かれた先行研究のうち、ヤワラカイの意味について詳細に論じたものは管見の限りないが、カタイの意味について詳細に論じられているものとして、国立国語研究所(1972)、杢山(1994, 2016)が挙げられる。杢山(1994)では、国立国語研究所(1972)の分析も踏まえて考察がなされていることから、本節では杢山(1994, 2016)の記述を見る<sup>6</sup>。

杢山(1994)では、「カタイ」の多義的別義と基本義からの派生の仕方について、国立国語研究所(1972)の分類も参照しつつ、「基本的比喩」(国広1982)、「換喩(メトニミー)」、「類推的転義」(国広1986)の3つの概念を用いて考察されている。さらに、杢山(2016)では、杢山(1994)で分析が不十分であった用法を中心に、「メトニミー」、「フレーム」の概念を用いて考察がなされている。杢山(1994, 2016)で挙げられている意味を合わせて表3に示す。

表3 杢山(1994, 2016)における「かたい」の意味分類<sup>7</sup>

※	意味	例	派生方法
[1]	〈ある固体が〉〈加えられる力に対して〉〈抵抗感を感じさせるさま〉	ダイヤモンド／鉄はかたい この肉／パン／豆腐はかたい 体がかたい	基本義
<2>	〈複数の密着したものに関して〉〈引き離そうとする〉〈力に対して〉〈抵抗感を感じさせる〉〈さま〉	口をカタク閉じる びんの栓がかたくて開かない 結束／団結がカタイ	基本的比喩
		「口がカタイ」「財布のひもがカタイ」	類推的転義
<3>	〈(人間の)状態・性質に関して〉〈変化を引き起こそうとする〉〈力に対して〉〈抵抗感を感じさせる〉〈さま〉	決心／決意／信念／がカタイ 申し出をカタク辞退する／拒む 守り／ガードがカタイ カタイ雰囲気／感じの集まりは 苦手だ カタイ人／土地柄／職業	基本的比喩
<4>	〈未確定の事柄に関して〉〈その事柄以外の可能性を考えようとする〉〈力に対して〉〈抵抗感を感じさせる〉〈さま〉	Aチームの優勝／B氏の当選 はカタイ	基本的比喩
<5>	〈言語表現(によって表された内容)に関して〉〈受け入れようとする〉〈力に対して〉〈抵抗感を感じさせる〉〈さま〉	カタイ表現／言葉／文体 カタイ話	基本的比喩
[2]	〈心理的に緊張した状態であるさま〉	緊張で体が固かった 硬くならなくていいよ	
[3]	【視覚】緊張状態等の平常心ではない心理状態が〈表情に現れているさま〉	硬い表情	緊張状態 フレーム
[4]	【視覚】〈緊張した心理状態が原因で〉〈動きに滑らかさがないさま〉	いつもより動きがかたいな	
[5]	【聴覚】〈緊張状態等の平常心ではない心理状態が〉〈声に現れているさま〉	硬い声	
[6]	【視覚】〈固体が〉〈直線的な輪郭を持つさま〉	堅い線	かたい物 フレーム
[7]	【聴覚】〈(聴覚的に)カタイもの同士が〉〈ある程度の勢いで接触するときに発せられる音の特徴〉	金属が触れあう硬い音	

※ <> は杢山(1994)で、[] は杢山(2016)で挙げられている意味である。

<sup>6</sup> 国立国語研究所(1972)の記述内容については付録を参照のこと。

<sup>7</sup> [1] 基本義, [2][3] 緊張した状態(が表情に現れているさま), [6] 直線的な輪郭については、杢山(1994)でも記述されているが、杢山(2016)の記述に代表させた。

羽山（2016）の特徴として，[3]～[7]の視覚・聴覚に関するものを「緊張状態フレーム」「かたい物フレーム」によって捉えている点が挙げられる。この点は，国立国語研究所（1972）で印象として捉えられているのとは対照的である。

### 3. 意味分類の検討

本節では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス：BCCWJ』の用例も参照しつつ，辞書類及び先行研究における語義について検討し，本稿における「カタイ」「ヤワラカイ」の語義を示す。

#### 3.1 「カタイ」の語義の検討

辞書類・先行研究における「カタイ」の語義は表4のようにまとめられる。

表4 辞書類・先行研究における「カタイ」の語義

国語辞典（概略）	IPAL	学習者向け辞書	初山（1994, 2016）	本稿分類
①形が変わりにくいさま。	01 変形したり，こわれたりしにくい 02 弾力性が少ない	[0] 力を加えても変形しにくい	ある固体が加えられる力に対して抵抗感を感じさせるさま	[1]
	03 あまりなめらかに動かない	[1] 体が曲げにくい		[1a]
⑧結びつきが強いさま。	04 きつくしまっていて，簡単には動かない	[4] しっかりくっついている [4b] 関係がしっかりしている	複数の密着したものに関して引き離そうとする力に対して抵抗感を感じさせるさま	[2]
⑨強い力が加わっているさま。				[3]
②変化しにくいさま。他からの影響を受けにくいさま。	07 強くしっかりしている	[3] 気持ちが揺るがない [4a] 守りがしっかりしている	(人間の) 状態・性質に関して変化を引き起こそうとする力に対して抵抗感を感じさせるさま	[4]
④厳しいさま。		[2c] 許さない		
③たしかである。確実である	09 実現の可能性が高い	[5] 確実だ	未確定の事柄に関してその事柄以外の可能性を考えようとする力に対して抵抗感を感じさせるさま	[4a]
⑤融通がきかないさま。		[2] 考え方が柔軟でない		[5]
⑥堅苦しいさま。まじめなさま。	08 まじめだが，面白味に欠ける	[2a] 表現が正式で崩れない [2b] 表現・内容が面白くない	言語表現（によって表された内容）に関して受け入れようとする力に対して抵抗感を感じさせるさま	[7]
⑦緊張しているさま。こわばっているさま。			心理的に緊張した状態であるさま	[1b]
	06 自由な，のびのびしたところがない	[1a] 動作・表情がぎこちない	【視覚】緊張状態等の平常心ではない心理状態が表情に現れているさま	[6]
			【視覚】緊張した心理状態が原因で動きに滑らかさがないさま	[1a]
			【聴覚】緊張状態等の平常心ではない心理状態が声に現れているさま	[6]
⑩画像の明暗の対照がはっきりしているさま。			【視覚】固体が直線的な輪郭を持つさま	[8a]
	05 音色に広がりがなく，冷たい感じを与える		【聴覚】（聴覚的に）カタイもの同士がある程度の勢いで接触するときに発せられる音の特徴	[8b]

表4をもとに，本稿では，図3のように「カタイ」の語義を整理する。

- 【1】(基本義) ある固体について、触ったり力を加えたりしても形が変わりにくいさま。  
 (例：このパン／クッション／枝 はカタイ)  
 → 【1a】 体が曲がりにくいさま・滑らかに動かないさま。(例：体／動きがカタイ)  
 → 【1b】 緊張しているさま。(例：カタクならなくていいよ)
- 【2】 複数のものの結びつきが強いさま。(例：カタク結ぶ, カタイ絆, カタク閉ざす)
- 【3】 強い力が加わっているさま。(例：カタク握りしめる)
- 【4】 変化しにくいさま。他を許さないさま。(例：ガードがカタイ, カタク禁ずる)  
 → 【4a】 たしかであるさま。(例：このチームの優勝はカタイ)  
 → 【5】 融通がきかないさま。(例：頭がカタイ)  
 → 【6】 人について、厳格であるさま。こわばっているさま。(例：カタイ表情／声／人)
- 【7】 堅苦しいさま (カタイ雰囲気, おカタイ話, カタイ表現)
- 【8】 共感覚メタファー  
 { 【8a】 (視覚) 直線的であるさま, 色などがはっきりしているさま (例：カタイ線)  
 【8b】 (聴覚) 金属音など、かたいもの同士がぶつかったときのような音 (例：カタイ音)  
 【8c】 (味覚) 口あたりがなめらかでないさま。(例：カタイ味)

図3 本稿における「カタイ」の語義

以下、辞書類・先行研究と異なる捉え方をしている部分を中心に説明する。まず、基本義をいくつに分けるかという問題があるが、本稿では、*初山* (1994, 2016) に倣い、1 固体の触覚に関する語義は【1】一つにまとめる。ただし、「形が変わりにくい」というところから転じた、「体がかたい」というのは、厳密には触覚ではないので、本稿では、学習者向け辞書に倣い、基本義から派生した別義【1a】とする<sup>8</sup>。そして、「動きが滑らかでない」という語義は、*初山* (2016) のように緊張フレームの中で捉えることもできるが、BCCWJ の用例を見ると、(8) のように、緊張によらない動きのかたさを述べる用例も見られる。以下、BCCWJ の用例には、ID、開始位置、出典(筆者とタイトル、またはサイト名 (Yahoo! 知恵袋 / Yahoo! ブログ)) を記す。なお、用例中の下線は筆者による。

- (8) 前日◎の十三が一番人気だが、歩様がやや硬く気配はあまりよく見えないので押さえまで。  
 (OY15\_13444, 3430 / Yahoo! ブログ)

(8) は競馬について述べている文脈であり、馬が緊張しているとは考えにくい。また、人間であっても、動きがかたいのは必ずしも「緊張した心理状態が原因」とは限らず、単に慣れていないためにかたい場合や、怪我から復帰したばかりで「動きがかたい」場合もあるだろう。こうした用法も包括的に捉えるため、本稿では、動きのかたさは【1a】の「体がよく曲がらない」というのと同義とした。さらにそれが、メトニミー的拡張により、【1b】緊張を表すようになったと捉える。

次に、【2】は、*初山* (1994) をもとに設定した。なお、【2】には、*初山* (1994) では「財布のひもがかたい」「口がかたい」という慣用句が含まれているが、これらはかなり生産性の低い言い方なので、本稿では「その他」として扱う。『三国』を参考に追加した【3】の「強い力が加わっ

<sup>8</sup> 身体部位であっても、「下腹部がぷくんと膨らんでいて、さわるとほんとに固いんだ。」(LBh9\_00150, 71250) のように触覚について述べているものは【1】とする。

ているさま」というのは、初山 (1994) では【2】に含まれているが、例えば (9) の「かたく握る」は、「強く握る」と言い換えることができること、また、「手」が1固体であると考えたと「複数のもの結びつき」とは捉えにくいことから、【3】を別義とした。

(9) ルイズは胸の辺りで、手をかたく握っている。

(LBs9\_00109, 1690 / ヤマゲチノボル『ゼロの使い魔』)

【3】は、『三国』の「固い」①「強い力が加わっていて、形が変わりにくい。」という語義をもとに考えると、基本義からメトニミーとして派生したと捉えられる。【4】は、基本義の「形が変わりにくい」というのが、形以外へと派生したものである。さらにこれは、可能性が他にないという場合には【4a】の確かさの意味になり、考え方が変わらないという場合には【5】に、人が周りに影響されないという場合には【6】へと派生する。なお、【6】については、初山 (2016) にあるように緊張などの一時的な心理状態によって「カタイ表情」になっている場合に加え、元来の性格による場合も含める。

【7】及び【8】は、抽象的なかたさである。【7】は、表現・話の内容・雰囲気といった、目に見えないものの堅苦しさという意味を分類した。【8】については、言及していない辞書類も多一方、初山 (2016) では「かたいものフレーム」の中に位置づけられているが、実例を見ると、視覚のうち直線を表わすわけではないもの等、かたいものフレームでは捉えられない「かたさ」について述べているものもある。

(10) 知的なノーカラーをボーイッシュに着崩し。固い印象に陥りがちなノーカラージャケットをカジュアル化。  
(PM51\_00103, 44390 / 宇津野亜衣『BOAO』)

(10) は、「固い印象」とあるように、直線的という意味ではなく、印象の話をしていることが分かる。このような用例も包括的に捉えるため<sup>9</sup>、本稿では、フレームに基づくメトニミー的拡張ではなく、瀬戸 (1995) の「共感覚メタファー」による拡張と捉える。

最後に、実例を見ていくと、図3に挙げているものの他に、慣用句の用例と、日本語の本来の意味から外れた訳語としての用例が見られた。(11)は慣用句、(12)は英語由来の専門用語の例である。

(11) 案外、目がカタイ。けど、もう寝となあ・・・ (OY15\_13102, 7900 / Yahoo! ブログ)

(12) この考え方を HSAB (硬い酸・塩基, 軟らかい酸・塩基) という。

(PB34\_00224, 1480 / 水町邦彦『酸と塩基』)

(11) については、本稿で考察対象としている辞書のうち、『大辞林』に「眠気がこない。眠たが

<sup>9</sup> 武藤 (2015) は、初山 (1994) が「共感覚的比喩」という語を用いずに触覚からの転用を説明していることについて、「これまで「共感覚的比喩」とされそれ以上の分析はされてこなかった感覚間の転用について、別の観点でさらに説得力のある説明がなされている。」(武藤 2015: 381) と高く評価している。しかし、本稿では、基本義からの派生のしかたよりも、さまざまな用法について包括的に分析し、それぞれの使われ方の特徴を明らかにすることに主眼を置いているため、「共感覚メタファー」という考え方を採用した。

らない。」と記載がある。(12)は, “hard and soft acids and bases” を直訳したものであり, 日本語の「硬い」がもともと持つ意味ではないと言える<sup>10</sup>。いずれも, 他の語義との関連が見出しにくいので, 本稿では「その他」として扱う。

### 3.2 「ヤワラカイ」の語義の検討

辞書類・先行研究における「ヤワラカイ」の語義は表5のようにまとめられる。

表5 辞書類における「ヤワラカイ」の語義

国語辞典 (概略)	IPAL	学習者向け辞書	本稿分類
①形が変わりやすいさま。	01 変形したり, こわれたりしやすい	[0] 少しの力で変形しやすい	【1】
	02 弾力性がある		
① - ふわふわしている	04 ふわふわした感触を与える		
① - よく曲がる	03 なめらかによく動く	[1] 体が曲げやすい	【1a】
		[1a] 動作が滑らかだ	
③堅苦しくないさま - 考え		[2] 考え方が柔軟だ	【5】
③ - 内容 - 表現		[3b] 内容が親しみやすい	【7】
②穏やかであるさま。	08 態度が穏やかで好感を与える	[3] 表情・態度が厳しくない [3a] 話し方・口調が優しい	【6】
	06 見た目があまりきつくなく, やさしい感じを与える	[4] 線がゆるく曲がっている [5] 光・色が強すぎない	【8a】
	07 感触が穏やかで, 快い感じを与える		【9】
	05 音色に広がりがあるあって, 暖かい感じを与える	[5a] 音が大きすぎない	【8b】
		[5b] 味が濃すぎない [5c] 匂いがきつすぎない	【8c】 【8d】

表5をもとに, 本稿では, 図4のように「ヤワラカイ」の語義を整理する。なお, 番号は図3の「カタイ」と対応させている。

- 【1】(基本義) ある固体について, 触ったり力を加えたりすると形が変わりやすいさま。  
 (例: このパン/クッション/枝 はヤワラカイ)  
 → 【1a】 体がよく曲がるさま・滑らかによく動くさま。(例: 体/動きがヤワラカイ)
- 【9】 感触が穏やかであるさま。(例: 日ざし/温泉の湯がヤワラカイ)
- 【3】 加わっている力が弱いさま。(例: ヤワラカク握る)
- 【5】 融通がきくさま (例: 頭がヤワラカイ)
- 【6】 人について, 態度・表情等が穏やかであるさま。(例: 物腰/表情/声がヤワラカイ)
- 【7】 堅苦しくないさま。(例: ヤワラカイ話/雰囲気/表現)
- 【8】 共感覚メタファー  
 { 【8a】 (視覚) 曲線的であるさま・見た目がきつくないさま。(例: ヤワラカイ線)  
 【8b】 (聴覚) 柔らかいものどうしがぶつかったときのような音。聞き心地のよい音色。  
 (例: ヤワラカイ音)  
 【8c】 (味覚) 口当たりがなめらかなさま。味が濃すぎない。(例: ヤワラカイ味)  
 【8d】 (嗅覚) ふわりと広がるような匂い。匂いがきつすぎない。(例: ヤワラカイ香り)

図4 本稿における「ヤワラカイ」の語義

<sup>10</sup> 国広 (1972) では多義語が生じる要因の1つとして「Foreign influence (外国語の影響)」が挙げられている。



以下、図4にあるもののうち、辞書類および「カタイ」の語義に挙げられていないものについて説明する。まず、【9】は、「??カタイ日ざし」とは言いにくいように、「カタイ」にない語義である。これは、基本義【1】が固体に関するものであるのが、固体以外の感触へと派生した用法と言える。【3】の加わっている力の弱さについては、辞書類では記述がないが、BCCWJに以下のような実例が見られる。

- (13) 葵は何も言わずそっとその手を握った。ナナコもやわらかく握りかえしてくる。  
(OB6X\_00084, 65140 / 角田光代『対岸の彼女』)

これは、〈形が変わりやすい→弱い力しか加わっていない〉というメトニミーによって基本義から派生したものであると考え、【3】を設定した。

【5】【6】は、「カタイ」と対応しているが、「ヤワラカイ」の場合、「カタイ」の【4】にあたる意味がなく（「??ヤワラカイガード」）、基本義の「変わりやすい」という部分から直接派生したものと捉えた。【8】の共感覚メタファーについては、辞書では一部しか挙げられていないが、「ヤワラカイ」の場合は視覚・聴覚・味覚・嗅覚のすべてへの派生が見られ、「カタイ」よりもこの用法が豊かな広がりを見せている。

- (14) これはクローム（銀色に光ってるもの）の線は柔らかく、ニューム（白っぽいもの）は硬い印象の線が引けます。  
【8a 視覚】(OC01\_05220, 2370 / Yahoo! 知恵袋)
- (15) 1キロヘルツで ダミー抵抗による エージング開始 # 一時間ほどで だいぶ柔らかい音に変化した。  
【8b 聴覚】(OY14\_01446, 3240 / Yahoo! ブログ)
- (16) 食物繊維たっぷりのきな粉をたくさん使って、柔らかい、コクのあるコーヒーを楽しもう。  
【8c 味覚】(PB55\_00263, 101780 / 狩野知代『休みの日には、コーヒーを淹れよう。』)
- (17) 香りをもっと楽しみたくて、首や手首にもつけてみた。# 多くても香りの柔らかさは同じ。むしろほのかな甘さが立ち、大人っぽさを主張できる。  
【8d 嗅覚】(PM41\_00716, 101610 / 中尾のぞみ『美的 (BITEKI) 2004年3月号』)

なお、「ヤワラカイ」についても、(12)の専門用語の訳語の用例が見られるが、これは「その他」として扱う。

#### 4. 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における用例の検討

本節では、3節で分類した語義ごとに、BCCWJにおける頻度、表記、用いられやすいジャンルにどのような違いが見られるのか見る。

##### 4.1 用例の抽出方法

本稿では、コーパス検索アプリケーション中納言を用いて用例を検索した。「カタイ」については、短単位検索で「語彙素読み=カタイ」として検索して得られた6,103例の中から、「花袋」「下腿」等の同音異義語と、「困難である」という意味の「難しい」を除外したのち、Excelのラン

ダム関数を用いて1,000例をランダムに抽出した。「ヤワラカイ」についても、「語彙素読み=ヤワラカイ」として検索して得られた3,872例の中から誤解析の用例を取り除いたうえでランダムに1,000例を抽出した。「カタイ」「ヤワラカイ」それぞれ、抽出された1,000例について、語義を分類した。

#### 4.2 語義ごとの用例数

まず、語義ごとの用例数を、表6に示す。

表6 「カタイ」と「ヤワラカイ」各1,000例の語義ごとの用例数

	ラベル	「カタイ」		「ヤワラカイ」	
		意味(概略)	数	意味(概略)	数
1	基本義	形が変わりにくい(ーパン)	537	形が変わりやすい(ーパン)	736
1a	体	体を曲げにくい(体/動きがー)	45	体を曲げやすい(体/動きがー)	39
1b	緊張	緊張している(ーくならないで)	55	非対応(×ーくして)	
9	穏やか	非対応(×ー日ざし)		感触が穏やかである(ー日ざし)	29
2	結束	結びつきが強い(ーく結ぶ)	37	非対応(×ーく結ぶ/○ゆるく結ぶ)	
3	強さ	加わっている力が強い(ーく握る)	53	加わっている力が弱い(ーく握る)	9
4	不変	変化しにくい(守りがー, ーく禁ず)	145	非対応(守りが×ヤワラカイ/ゆるい)	
4a	確実	確かである(優勝はー)	14	非対応(×優勝はー)	
5	思考	融通がきかない(頭がー)	14	融通がきく(頭がー)	8
6	態度	人が厳格である(一人/表情/声)	39	人が穏やかである(一人/表情/声)	46
7	堅苦しさ	堅苦しい(ー雰囲気/話/表現)	27	堅苦しくない(ー雰囲気/話/表現)	26
8a	視覚	直線的・はっきりしている(ー線)	11	曲線的・きつくない見た目(ー線)	62
8b	聴覚	金属音などのはっきりした音(ー音)	3	強すぎない, 聞き心地の良い音(ー音)	19
8c	味覚 <sup>11</sup>	口当たりがなめらかでない。はっきりした味(ーワイン)	0	口当たりがなめらか。味が濃すぎない(ーワイン)	8
8d	嗅覚	非対応(×ーにおい)		ふわりと広がる香り。(ー香り)	5
	その他	訳語(ー酸・塩基) 慣用(口がー, 財布の紐がー, 目がー)	9 11	訳語(ー酸・塩基)	13

表6を見ると、「カタイ」も「ヤワラカイ」も【1基本義】での使用が多く、「ヤワラカイ」については、【1基本義】の用例が7割以上を占める。一方、「カタイ」は、「ヤワラカイ」にない語義も多く、半数程度は【1基本義】以外の使用である。基本義以外については、「カタイ」と「ヤワラカイ」とで使用されやすい語義が異なる。まず、「カタイ」は、【4不変】のほか、【1b緊張】【3強さ】の用例が多いが、【4不変】【1b緊張】は「ヤワラカイ」とは対応していない語義である。一方「ヤワラカイ」は、共感覚メタファー(特に【8a視覚】)が多く、さらに、【8d嗅覚】のように「カタイ」では使われない用法にまで派生している。

さらに、『分類語彙表』との対応を確認する。2.1節でも述べた通り、「カタイ」については「3.5060 相一自然一自然一材質」と「3.3013 相一活動一心一安心・焦燥・満足」の2か所に掲載されてい

<sup>11</sup>「カタイ」が味覚について使われている例は、本稿の調査対象では見つからなかったが、インターネット上で「硬いワインとは、苦みや酸味が非常に強いワインの味わいを表現するときに使われる言葉。」([http://wine-bzr.com/article/glossary/g\\_hard\\_wine/](http://wine-bzr.com/article/glossary/g_hard_wine/)) (2023年8月8日確認)といった用例が見つかった。

るのに加え、「頭が固い」(3.3421 相一活動一行為一才能)と「口が堅い」(3.3100 相一活動一言語一言語活動)の2語が見出し語になっている。一方「ヤワラカイ」については、「3.5060 相一自然一自然一材質」にのみ記載がある。これをもとに、表6のうち『分類語彙表』でも示されている語義を太枠で囲って(「口が堅い」についてはゴシックにして)示した。これを見ると、得られた用例(各1,000例)のうち「カタイ」の6割弱、「ヤワラカイ」の7割程度は現在の『分類語彙表』でもカバーできていることが分かる。しかし、「カタイ」の【4不変】【1b緊張】【3強さ】、「ヤワラカイ」の【8】共感覚メタファーのように、よく使われている意味で漏れているものもある。これらについては、『分類語彙表』の該当箇所に「カタイ」「ヤワラカイ」という語を加える必要があると考える。

例えば、「カタイ」の【4不変】は現在の『分類語彙表』で「揺るぎない」「確固」等の語が挙げられている「3.1400 相一関係一力一力」や、「厳格」「厳しい」等の語が挙げられている「3.3680 相一活動一待遇一待遇・礼など」に、【3強さ】も、「堅固」「強固」「強い」「しっかり」といった語が挙げられている「3.1400 相一関係一力一力」に分類できそうである。また、【1b緊張】は、名詞の「緊張」(1.3000 体一活動一心一心)、動詞の「緊張する」(2.3000 用一活動一心一心)に合わせ、「3.3000 相一活動一心一心」に分類するとよいだろう。

「ヤワラカイ」の【8】共感覚メタファーについては、【8a視覚】を「優しい[~曲線]」が分類されている「3.1345 相一関係一様相一美醜」に、「ヤワラカイ」だけに見られた【8c味覚】、【8d嗅覚】はそれぞれ「3.5050 相一自然一自然一味」,「3.5040 相一自然一自然一におい」に分類することを提案したい。

なお、表6に太枠で示したのは、筆者が『分類語彙表』における分類と対応していると判断したものであり、『分類語彙表』では太枠以外の意味も含めて大きく分類されている可能性もあるが、『分類語彙表』には例文がなく、どこまでの語義をカバーしているのか、正確に判断するのは難しい。このことから、特に多義語については、分類だけでなく、例文も提示されることが望ましい。

#### 4.3 表記ごとの比較

付録にあるように、本稿で考察対象としている母語話者向けの辞書のうち、『三国』だけが「硬い」と「固い」と「堅い」,「柔らかい」と「軟らかい」を別の語として立項しており、他の3種の辞書は立項項目としては1語で、意味によって使う漢字に差があるとする立場をとっているという違いはあるものの、4種とも意味と漢字表記が対応している点では共通している。これに対し、初山(1994)では、「カタイ」について、実例を分析した結果から、「固」「硬」「堅」というカタイに対する3つの漢字表記は、カタイの意味の違い(多義的別義)に厳密に対応しているとは考えられない。つまり、カタイの漢字表記は「ゆれ」ていることになる(初山1994: 72)としている。しかし、初山(1994)は、それぞれの多義的別義について、用いられる漢字が1つではないことを実例をもとに示してはいるものの、その数については示していない点で検討の余地がある。そこで、本節では、BCCWJの用例を用いて、意味用法ごとの表記の違いについて、数とともに示す。なお、コーパスの実例にはひらがな表記も見られるため、それもあわせて

見る。BCCWJにおける「カタイ」の意味用法・表記ごとの用例数は、表7の通りである<sup>12</sup>。各表記について、左側は用例数を、右側はその用法においてその表記が占める割合を示している。太字は各語義において最も高い割合で用いられている表記である。

表7 「カタイ」の意味用法・表記ごとの用例数

	硬い		固い		堅い		かたい		計
	用例数	割合	用例数	割合	用例数	割合	用例数	割合	
1 基本	<b>255</b>	<b>47.5%</b>	144	26.8%	67	12.5%	71	13.2%	537
1a 体	<b>34</b>	<b>75.6%</b>	7	15.6%	0	0.0%	4	8.9%	45
1b 緊張	14	25.5%	<b>28</b>	<b>50.9%</b>	5	9.1%	8	14.5%	55
2 結束	0	0.0%	<b>25</b>	<b>67.6%</b>	5	13.5%	7	18.9%	37
3 力	4	7.5%	<b>29</b>	<b>54.7%</b>	5	9.4%	15	28.3%	53
4 不変	5	3.4%	<b>78</b>	<b>53.8%</b>	46	31.7%	16	11.0%	145
4a 确实	2	14.3%	1	7.1%	<b>9</b>	<b>64.3%</b>	2	14.3%	14
5 思考	0	0.0%	<b>12</b>	<b>85.7%</b>	1	7.1%	1	7.1%	14
6 態度	<b>15</b>	<b>38.5%</b>	<b>13</b>	<b>33.3%</b>	5	12.8%	6	15.4%	39
7 堅苦しさ	2	7.4%	7	25.9%	<b>15</b>	<b>55.6%</b>	3	11.1%	27
8a 視覚	<b>8</b>	<b>72.7%</b>	3	27.3%	0	0.0%	0	0.0%	11
8b 聴覚	<b>2</b>	<b>66.7%</b>	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	3
その他	<b>9</b>	<b>45.0%</b>	3	15.0%	5	25.0%	3	15.0%	20
計	350	35.0%	350	35.0%	164	16.4%	136	13.6%	1000

表7を見ると、ある程度用例数のある語義については、さまざまな表記が用いられており、舩山(1994)で指摘されている通り、揺れがあることが分かるが、語義によって、用いられやすい表記は異なっている。「硬」の字は【1 基本義】【1a 体】の物理的な意味と、【8】共感覚メタファーのように、モノについて描写する際に用いられやすいのに対し、「固」は【1b 緊張】【5 思考】【6 態度】のように心理面にかかわるもの、【3 力】【4 不変】のように目に見えないものについて描写する際に用いられやすい。また、【2 結束】も「固」に偏っている。「堅」については、「硬」「固」に比べて使用が限られており、【4a 确实】や【7 堅苦しさ】で使われている。「カタイ」の表記の分布は、概ね母語話者向け国語辞典における記述と一致していると言える。

次に、「ヤワラカイ」の意味用法・表記ごとの用例数を、「カタイ」と同様に表8に示す。

<sup>12</sup>「カタイ」「ヤワラカイ」ともに中納言の「書字形」欄を用いて分析した。なお、ここでは漢字の違いに着目することを目的としているため、「固い」と「固し」のような現代語と古語の違い、「柔らかい」と「柔かい」のような送り仮名の違いについては不問とする。

表8 「ヤワラカイ」の意味用法・表記ごとの用例数

	柔らかい		軟らかい		やわらかい		計
	用例数	割合	用例数	割合	用例数	割合	
1 基本	396	53.8%	75	10.2%	265	36.0%	736
1a 体	28	71.8%	3	7.7%	8	20.5%	39
9 穏やか	18	62.1%	0	0.0%	11	37.9%	29
3 力	6	66.7%	0	0.0%	3	33.3%	9
5 思考	5	62.5%	0	0.0%	3	37.5%	8
6 態度	29	63.0%	0	0.0%	17	37.0%	46
7 堅苦しさ	14	53.8%	0	0.0%	12	46.2%	26
8a 視覚	38	61.3%	0	0.0%	24	38.7%	62
8b 聴覚	10	52.6%	1	5.3%	8	42.1%	19
8c 味覚	5	62.5%	0	0.0%	3	37.5%	8
8d 嗅覚	4	80.0%	0	0.0%	1	20.0%	5
その他	0	0.0%	13	100.0%	0	0.0%	13
計	553	55.3%	92	9.2%	355	35.5%	1000

「ヤワラカイ」については、揺れは見られるものの、「その他」（「軟らかい酸・塩基」という英語由来の専門用語）を除き、基本的に「柔」の字が使われている。この点は、『明鏡』および『三国』で【7堅苦しさ】の表記が「軟」になっているのとはギャップがある。また、ひらがな表記の割合が「カタイ」よりも高くなっているが、これは、ひらがなの「ヤワラカイ」イメージによるものだと考えられる。

#### 4.4 ジャンルごとの比較

本節では、ジャンルごとに用例数を比較する<sup>13</sup>。BCCWJのデータのうち、レジスターが「出版・書籍」「図書館・書籍」であるものは、日本十進分類法（NDC）に従い、「ジャンル」が分けられている。ジャンルごとに用例数を数えた結果を、100万語あたりに変換して表9・10に示す。

<sup>13</sup> 姜（2012）では、多義語形容詞「甘い」について、語義の再分類、BCCWJを用いた語義ごと・レジスターごとの用例数の比較がなされている。「カタイ」「ヤワラカイ」については、レジスターによる差があまり見られなかったため、本稿ではレジスターごとの比較は行わず、ジャンルごとの比較を行った。なお、姜（2012）では、BCCWJのデータで「レジスター」として記載されているものを「ジャンル」と呼んでいる。

表9 「カタイ」の意味用法・ジャンルごとの用例数（100万語あたり）

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・美術	言語	文学
1 基本	2.7	2.4	1.4	1.4	9.8	<b>19.4</b>	6.7	4.4	6.1	6.8
1a 体	0.0	0.3	0.0	0.1	1.3	0.7	0.0	0.0	1.0	0.6
1b 緊張	0.0	0.3	0.3	0.1	0.0	0.0	0.4	0.5	0.0	<b>2.0</b>
2 結束	1.3	0.3	0.8	0.2	0.4	0.5	0.0	0.2	1.0	0.7
3 力	0.0	0.0	0.3	0.1	0.2	1.2	0.0	1.0	0.0	1.5
4 不変	2.0	<b>3.0</b>	2.2	1.2	0.4	0.5	1.3	0.7	2.0	2.5
4a 確実	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.1
5 思考	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3
6 態度	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.2	1.0	<b>1.3</b>
7 堅苦しさ	0.0	0.3	0.5	0.1	0.2	0.7	0.9	0.0	<b>4.1</b>	0.3
8a 視覚	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0
8b 聴覚	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
その他	0.0	0.3	0.0	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2
計	6.0	7.8	5.8	3.3	14.3	<b>23.8</b>	9.3	8.4	15.2	16.4

表10 「ヤワラカイ」の意味用法・ジャンルごとの用例数（100万語あたり）

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・美術	言語	文学
1 基本	2.0	1.5	1.9	1.0	12.2	<b>33.8</b>	11.2	6.6	4.1	8.3
1a 体	0.0	0.3	0.2	0.1	0.9	0.7	0.0	1.5	0.0	0.4
9 穏やか	0.0	0.9	0.5	0.1	0.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.4
3 力	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
5 思考	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.1
6 態度	0.7	0.0	0.7	0.3	0.2	0.5	1.3	0.2	0.0	1.0
7 堅苦しさ	0.7	0.6	0.5	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	<b>2.0</b>	0.3
8a 視覚	0.7	0.6	0.3	0.1	0.0	1.0	1.3	<b>2.2</b>	1.0	0.8
8b 聴覚	0.0	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.7	1.0	0.2
8c 味覚	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	<b>1.2</b>	0.0	0.0	0.0	0.0
8d 嗅覚	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	4.1	4.5	4.6	2.0	16.6	<b>38.1</b>	13.8	11.4	9.1	11.7

表9・10を見ると、「カタイ」・「ヤワラカイ」とともに「技術・工学」の用例が最も多い。特に、【1 基本】の意味での使用はいずれの語も「技術・工学」が他のジャンルを大きく上回っている。その理由を考えるため、用例を観察してみると、いずれも、以下のように食べ物・料理の話題で多く使われていることが分かる。

(18) ヒレは硬いので、まな板の縁にヒレをのせて庖丁の刃先をしっかりと当て、魚を動かしながら切っていく。

(LBp5\_00008, 30360／旭屋出版「和食」編集部（編）『わかりやすい和食の包丁技術』)

(19) 赤唐辛子も加え、野菜がやわらかくなるまで煮る。

(PB45\_00039, 21870／福留功男『ニッポンのごはんトメさんスペシャル』)

その他の意味用法を見ると、「カタイ」については、【1b 緊張】【6 態度】が「文学」に偏っており、



登場人物の心情を描写するために使われているのだと考えられるが、「ヤワラカイ」については【6 態度】の用例数にそのような偏りが見られず、広く分布している。

- (20) 「警察には、犯人逮捕に全力をつくしていただくとして、上野駅としての対策も考えなければならぬと思う」と堀井が、堅い表情でいった。

【6 態度】(OB2X\_00124, 51420／西村京太郎『上野駅殺人事件』)

また、「カタイ」の【4 不変】は「哲学」に多いが、それは、宗教に関する話題で「カタク信じる」「カタク誓う」といったコロケーションが頻繁に出現するからだと考えられる。

- (21) 万国の民を神の大道に言向和するにあることを堅く信じます。

(LBa1\_00014, 46240／松本健一『出口王仁三郎』)

「ヤワラカイ」については、「カタイ」に比べて豊富に見られた共感覚メタファーの用例について、【8a 視覚】の用例が「芸術・美術」に、【8c 味覚】が「技術・工学」に集中していることが分かる。その理由は、【8a 視覚】が絵画等の芸術の話題で、【8c 味覚】が食べ物の話題で使われているためである。

- (22) 小出の帰国後の絵には、温かみや柔らかさがどんどん盛り込まれてゆく。

【8a 視覚】(LBt7\_00039, 10030／森村泰昌『時を駆ける美術』)

- (23) 8年は、若い層をターゲットとしたやわらかい風味。#十二年はさらに味がまるやか。

【8c 味覚】(LB15\_00044, 41810／K-Writer's Club (編著)『世界と日本のウイスキー・カタログ』)

なお、2語に共通して、【7 堅苦しさ】が言語に集中しているのは、「カタイ／ヤワラカイ表現」のような言葉に関する用例がここに含まれるためである。また、【その他】が「自然科学」に多いのは、「軟らかい／硬い酸・塩基」が含まれているためである。

以上の観察から、各意味用法が使われやすいジャンル・話題には偏りがあり、さらに、対義語とされる「カタイ」と「ヤワラカイ」で異なっていることが分かったが、こうした情報は、現在の『分類語彙表』からは分からない。

## 5. おわりに

本稿では、多義をもつ形容詞「カタイ」と「ヤワラカイ」について、考察を行い、以下のことが分かった。まず、意味については、「カタイ」も「ヤワラカイ」も基本義での使用、つまり物理的な触覚について述べる際に使われることが多いが、「ヤワラカイ」は「カタイ」以上に基本義の割合が高い。基本義以外については、「カタイ」は【4】「変化しにくいさま」や【1b】「緊張しているさま」といった「ヤワラカイ」とは対応していない語義での使用が多いのに対し、「ヤワラカイ」は【8a 視覚】をはじめとする共感覚メタファーの使用が多いというように、使われやすい意味に違いが見られた。

表記については、「カタイ」も「ヤワラカイ」も、揺れが見られるが、意味ごとに使われやす



い漢字が異なっていることが確認された。

最後に、ジャンルについては、【1】基本義については、「カタイ」も「ヤワラカイ」も食べ物・料理の話題を中心に「技術・工学」での使用が多いという特徴が観察された。それ以外の意味については、「カタイ」は【1b 緊張】【6 態度】が「文学」で登場人物の心情描写に多く用いられており、【4 不変】について「哲学」における宗教関連の話題で「カタク信じる」というコロケーションが多く用いられていること、「ヤワラカイ」の【8a 視覚】が「芸術・美術」で、【8c 味覚】が「技術・工学」における食べ物の話題で多く用いられていることが分かった。

以上より、現在の『分類語彙表』では、「カタイ」と「ヤワラカイ」のよく使われる意味がカバーしきれていないと言える。「カタイ」については、特に、【4】「変化しにくいさま」という意味について「3.1400 相一関係一力一力」に、「ヤワラカイ」については、【8a】の見た目のやわらかさという意味に基づいて「3.1345 相一関係一様相一美醜」にも追加することが望まれる。さらに、「カタク信じる」「ヤワラカイ線で描かれた絵」のように、よく使われる形・話題での例文も提示すれば、日本語学習者にとっても役に立つのではないかと考えられる。

## 参考文献

- 柏野和佳子 (2006) 『『分類語彙表』の特徴と位置付け』『日本語科学』19: 143-160.  
 姜紅 (2012) 「コーパスに基づく多義語「甘い」の意味再分類及び語義分布調査」『日本文学研究』22: 88-93.  
 国広哲弥 (1972) 「多義語の意味構造」『現代言語学』19: 165-179.  
 国広哲弥 (1982) 『意味論の方法』東京：大修館書店。  
 国広哲弥 (1986) 「類義研究の問題点—多義語を中心として—」『日本語学』5(9): 4-12.  
 国立国語研究所 (1964) 『分類語彙表』(国立国語研究所資料集 6) 東京：秀英出版。  
 国立国語研究所 (西尾寅弥) (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』東京：秀英出版。  
 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表—増補改訂版—』(国立国語研究所資料集 14) 東京：大日本図書。  
 新納浩幸 (1997) 「コーパスを利用した分類語彙表の未登録語義の発見」『情報処理学会論文誌』38(5): 953-961.  
 瀬戸賢一 (1995) 『メタファー思考』東京：講談社。  
 橋本三奈子・廣瀬茂・村田賢一 (1989) 「計算機用日本語基本形容詞辞書について」『全国大会講演論文集』第39回：746-747。  
 武藤彩加 (2015) 『日本語の共感覚的比喩』東京：ひつじ書房。  
 初山洋介 (1994) 「形容詞「カタイ」の多義構造」『名古屋大学 日本語・日本文化論集』2: 65-90。  
 初山洋介 (2016) 「形容詞「かたい」の意味—メトニミーとフレームの観点から—」『言語文化論集』37(2): 73-87。  
 初山洋介 (2020) 『実例で学ぶ認知意味論』東京：研究社。  
 初山洋介 (2021) 『[例解] 日本語の多義語研究—認知言語学の視点から—』東京：大修館書店。  
 森田良行 (1986) 「同音異義語と多義語の境界」『日本語学』8(5): 13-21。  
 八尾紀子 (2007) 「子供の言語習得の事例研究に基づく多義語「カタイ」に関する一考察」『比較文化研究』76: 99-108。

## 関連 Web サイト

- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』<https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/> (2023年4月25日確認)  
 国立国語研究所コーパス検索アプリケーション『中納言』<https://chunagon.ninjal.ac.jp/> (2023年4月25日確認)

## 資料

- 今井新悟（編著）（2011）『イメージでわかる言葉の意味と使い方 日本語多義語学習辞典 形容詞・副詞編』東京：アルク。
- 北原保雄（編）（2020）『明鏡国語辞典 第三版』東京：大修館書店。
- 見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大（編）（2022）『三省堂国語辞典 第八版』東京：三省堂。
- 国立国語研究所（2004）『分類語彙表増補改訂版データベース』（ver.1.0）。
- 情報処理振興事業協会技術センター（1990）『計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL（Basic Adjectives）』東京：情報処理振興事業協会技術センター。
- 情報処理振興事業協会（IPA）（2007）GSK 配布版「計算機用日本語基本辞書 IPAL—動詞・形容詞・名詞—」東京：言語資源協会。
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫・柏野和佳子・星野和子・丸山直子（編）（2019）『岩波国語辞典 第八版』東京：岩波書店。
- 松村明・三省堂編修所（編）（2019）『大辞林 4.0』東京：三省堂。

## 付録

## 【付録 1】 母語話者向け国語辞典における記述

## 「カタイ」

『岩波国語辞典 第八版』

かた-い【堅い・固い・硬い】

- ①力を加えても、形を変えたり壊れたりしないほど、物がしっかりしている。⇔やわらかい。「石は木より—」。比喩的に、音に伸びがなく冷たい感じだ。[硬]「—トーン」
- ②たやすくは崩れないほど確かだ。[堅・固]
- ⑦攻撃や誘惑などに負けない。堅固だ。「—とりで」「—く門をとざす」「意志が—」「—約束をかわす」「口が—」（秘密などを守り通し、しゃべらない）。きびしい。「—く戒める」
- ④する事がいい加減でなく、良心的だ。⇔やわい。「いつも—仕事をする大工」
- ⑧実現の見込みが確実だ。「彼の合格は—」
- ③心や体の状態に、ゆとりや遊びがない。[堅・固]
- ⑦きまじめだ。かた苦しい。「（お）—事を言う」
- ④かたくなだ。がんこだ。融通がきかない。「頭が—」
- ⑨緊張のあまり行動のなめらかさを失う。「初出場で—くなる」「—表情」▽表情の場合は普通「硬」を使う。

『大辞林 4.0』

かた・い【堅い・固い・硬い】

- ①物が力を加えられても、容易に形や状態を変えない。《固・硬》⇔やわらかい。「—い鉛筆」「卵を—くゆでる」
- ②物と物、人と人がしっかりと合わさっていて容易に離れない。《堅・固》⇔ゆるい。「—くひもを結ぶ」「—い団結」「—い握手」
- ③心が動揺したり、容易に変わったりしない。《堅・固》「—い決意」「—く信ずる」「押し売り—くおことわり」
- ④自分の考えにこだわり、融通がきかない。頑固だ。《固・硬》⇔やわらかい。「頭が—い」
- ⑤外見がこわばって柔らかみがない。また、緊張していきこちない。《硬》「—い表情」
- ⑥内容がまじめ一方で、面白みがない。かたくなるしい。きまじめだ。《固・硬》⇔やわらかい。「—い一方の男」「—い話」
- ⑦することに、浮ついたところがなく、信用がおける。《堅・固》
- ⑦てがたい。堅実だ。「—い商売」「—く見積もっても一億円はもうかる」
- ④（「口がかたい」の形で）人に秘密をもらさない。「口の—い人」
- ⑨間違いがない。確かだ。「合格は—い」「一万円は—い」
- ⑧どんな小さなことでも誤りを許さない。嚴重だ。きびしい。《堅・固》「—く禁ずる」「守りの—い城」
- ⑨（「目がかたい」の形で）眠気がこない。眠たがらない。《堅・固》「おとなし様に、おめが—い／浄

瑠璃・梟狩剣本地」

- ⑩取形で、相場がなかなか下がらない。《堅・固》「値が一・い」「底が一・い」  
 ⑪写真で、画像の明暗の対照がはっきりしている。硬調である。《硬》

『明鏡国語辞典 第三版』

かたい【堅い・固い・硬い】

- ① [堅・固] よくしまっていて崩れにくい。「堅い材木」「堅く門戸を閉ざす」  
 ② [堅・固] 確かで危なげがない。手堅い。堅実だ。「堅い商売 [職業]」「[競馬で] 堅いレース」  
 ③ [堅・固] 見込みなどに間違いがない。確実だ。「合格 [優勝] は堅い」  
 ④ [固] しっかりと結びついて離れにくい。「団結が固い」「固い友情で結ばれる」「固い握手を交わす」  
 ⑤ [固] 《連用形で、副詞的に》絶対に許さないさま。「外出を固く禁ずる」「固くお断りします」  
 ⑥ [固・堅] しっかりしていて揺るがない。堅固だ。「彼の決意は固い」「守り [身持ち] が堅い」「固い約束を交わす」「固く信じる」  
 ⑦ [固・硬] 融通がきかない。きまじめだ。「年の割に頭が固い (= 頑固だ)」「そう固いことを言うな」  
 ⑧ [硬・固] 弾力がなく、力を加えても容易に変形しない。「このせんべいは硬い」「堅い殻 [石・肉]」  
 ⑨ [硬・固] こわばっていて柔らかさや伸びやかさに欠けている。「体 [表情・演技・文章] が硬い」「硬い水 [音]」「緊張して硬くなる」  
 ⑩ [硬・堅] 道徳的・学問的だ。浮ついていない。「内容が硬くて一般受けしない」「硬い本を出版する」「硬い話は抜きにして…」

『三省堂国語辞典 第八版』

かた・い【固い】

- ①強い力が加わっていて、形が変わりにくい。「パンの生地を固く練る・一ふとん・まだつぼみがー」(↔柔らかい)  
 ②水分が〈少なくて／なくて〉、形が変わりにくい。「肉がー・〈柔らかいごはん／軟らかいおかゆ〉が固くなる」  
 ③くっついていて、動かない。「障子がー・固く結ぶ」  
 ④強い力が加わっているようすだ。「一握手・固くだしめる」  
 ⑤あまりよく曲がらない。「からだかー」(↔柔らかい)  
 ⑥融通がきかない。がんこだ。「頭かー」(↔柔らかい)  
 ⑦簡単には変わらない。「決意かー・団結かー・固く約束する」  
 ⑧ゆるくない。きびしい。「ガードかー」(↔甘い)  
 ⑨【固く】絶対に…してはならないと。「油断を固くいましめる・駐車は固くお断りします」

かた・い【硬い】

- ①【金属・石・紙など、いろいろの物質について】形の変わりにくい度合いが高い。硬度が高い。「一ガラス」  
 ②【文章などが】むずかし(くて、自然でな)い。「一表現」(↔軟らかい)  
 ③こわばっているようすだ。「表情かー」(↔柔らかい)

かた・い【堅い】

- ①【木・炭などの】中身がしっかりつまって、形が変わりにくい。たわみにくい。「一材木」(↔柔らかい)  
 ②手がたい。堅実だ。「一商売 [水商売や不安定な仕事などに対する言い方]」  
 ③攻めてもなかなか破れない。「一守り」  
 ④たしかだ。ゆるがない。「合格はー」  
 ⑤おこないがまじめだ。「一男」  
 ⑥義理がたい。「これはこれは、おーことで [あいさつのことば]」  
 ⑦かたくるしい。「一話・そうーことを言わないで・堅く考える」(↔軟らかい)

「ヤワラカイ」

『岩波国語辞典 第八版』

やわらか-い【柔らかい・軟らかい】

- ①やわらかだ。↔かたい・こわい(強)。  
 ②堅苦しくない。態度や内容が軟弱(色情的)だ。↔かたい。「一話」

## 『大辞林 4.0』

やわらか・い【柔らかい・軟らかい】

- ① 固くなくて、ふんわりしている。また、しなやかである。「一・い毛布」「体が一・い」「肌ざわりが一・い」
- ② 穏やかなさま。「一・い物腰」「一・い日ざし」
- ③ 堅苦しくない。くだけている。また、融通性に富んでいる。「一・い話」「頭が一・い」

## 『明鏡国語辞典 第三版』

やわらか・い【柔らかい・軟らかい】

- ① [軟・柔] 固さの程度が小さく、力のままに変形したり壊れたり曲がったりするさま。「軟らかい餅 [肉・地盤]」「僕の髪の毛は細くて軟らかい」「大根を軟らかく煮る」
- ② [柔] 力のままに変形するが、すぐにもとに戻る性質がある。柔軟で弾力性がある。「赤ちゃんの頬は柔らかい」「枝が柔らかくしなう」
- ③ [柔] 体がしなやかに曲がったり滑らかに動いたりする。「体 [筋肉・手首] が柔らかい」
- ④ [柔] 布地や動物の体毛などが穏やかな感触をもっている。「この服地は手触りが柔らかい」
- ⑤ [柔] 物事や態度が穏やかで心地よい感じを与える。「春の日差しが柔らかい」「オーボエが柔らかい音色を響かせる」「物腰 [人当たり・まなざし] が柔らかい」
- ⑥ [軟] 表現などがしなやかで、こわばったところがない。「文章 [表現] が軟らかい」
- ⑦ [軟] 内容が娯乐的・世俗的だ。「軟らかい本 [話]」
- ⑧ [軟] 考えに適応力があり、融通がよく利く。「年の割に頭が軟らかい」

## 『三省堂国語辞典 第八版』

やわらか・い【柔らかい】

- ①ものがふれると、それにしたがってよく曲がるようすだ。「一ヤナギの枝」(⇔硬い・堅い)
- ②軽くふわふわして、さわると気持ちがいい。「一髪・一毛布」(⇔硬い)
- ③ [からだが] いろいろな形によく曲がるようすだ。「一身のこなし」(⇔硬い)
- ④簡単に (かみ) 切れるようすだ。「一パン・ジューシーで一肉」(⇔固い) [表記] 同じ肉でも、かみ切りやすい上等のステーキは「柔らかい」、ぐにゃぐにゃした生肉は「軟らかい」と書き分けられる。
- ⑤ [考えが] ものごとにとらわれない。「一発想・頭を柔らかくする」(⇔固い)
- ⑥ [人に] きびしく当たらない。やさしい。「一風・一日ざし・一表情」

やわらか・い【軟らかい】

- ①力を加えると、簡単に形が変わるようすだ。硬度が低い。「土が一 (⇔硬い)・ボールが一 (⇔硬い)・生肉が一 (⇔固い)」
- ②水気が多く、どろどろしたようすだ。「一おかゆ」(⇔固い)
- ③気軽な感じだ。わかりやすい。「一話・一文章」(⇔堅い・硬い)

## 【付録 2】 国立国語研究所 (1972) における「カタイ」に関する記述

[00] 「物体の質がじょうぶであって、力を加えられても形が変わりにくい」(国立国語研究所 1972: 413)

[01] 「かたくなる」という連語の形で、「楽な気持ちを失って、心身が緊張する」という意味を表わす。(同: 419)

[10] 物どうしが、ぴったりと、またはしっかりと、くっつけられ、いっしょにされた状態。(同: 420)

[11] 物どうしがしっかりとくっついていて、動かしにくい。(同: 424)

[20] 物体ではなく、無形のことにに関して、それがしっかりと、ゆるがしがたい状態であることを意味する。(同: 424)

[21] 確実である、うごかぬところである (同: 426)

[3] ものごとから感じ取られる印象について、「かたい ([00] の意味での) 感じがする」とでもいうような意味を表わすもの。(同: 426)

[31] 線・音とか、制作物・文章とか、ある場の雰囲気など、さまざまな対象から感じ取られる印象について用いられる「かたい」(同: 427)

[32] 人間の表情などについて使われ、やさしくなごやかでなく、きつい感じを表わす。(同: 428)

[4] まじめな実直な性格で、まちがいが無い。安全な堅実なやりかたで、信用がおける。(同: 428)

[5] 「かたい」を含む慣用句で、[4] までに関係づけにくいもの (同: 430)

…「あたまがかたい」、「目がかたい」

## Analysis of the Polysemous Words *Katai* and *Yawarakai* for the Enlargement of the “Word List by Semantic Principles”: Using BCCWJ Analysis

MIYOSHI Yuka

Hitotsubashi University, Graduate Student /  
Adjunct Researcher, Research Department, NINJAL

### Abstract

This study reclassifies the meanings of the polysemic adjectives *katai* and *yawarakai*, and points out which meanings should be added to the “Word List by Semantic Principles,” in which only a few meanings of polysemous words are listed. By analyzing the frequency of examples for each meaning and the relationship between the meaning and notation, and between the meaning and genre — drawing on examples from the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese — the following findings were established. Both *katai* and *yawarakai* are often used in their basic meanings relating to the physical sense of touch; however, for the non-basic meanings, *katai* is often used to mean (4) “not changed easily,” (1b) “nervous,” and (3) “strength.” In contrast, *yawarakai* is often used in synesthetic metaphors such as (8a) one’s “visual sense.” Although neither *katai* nor *yawarakai* is fixed in terms of writing, the kanji most likely to be used for the different meanings did differ. Regarding genre, the basic meanings of both *katai* and *yawarakai* are often found in technology and engineering. For *katai*, (1b) and (6) “attitudes” were found to be often used in literature and (4) in philosophy. For *yawarakai*, (8a) is often used in the arts and (8c) “taste sense” is often used in technology and engineering to describe food. Through the above discussion, this study points out that the “Word List by Semantic Principles” is lacking in describing the meanings of words that are frequently used and argues that it is necessary to present the basic meanings of words with example sentences that match the appropriate notation and genre.

**Keywords:** polysemous words, adjectives, Word List by Semantic Principles, *katai*, *yawarakai*